

2017年11月通常会議 教育委員任命に対する討論

2017年11月27日

杉浦 智子

私は日本共産党大津市会議員団を代表いたしまして、ただいま提案されております議案第161号教育委員会委員の任命について、反対討論を行います。

本議案は、この12月17日の日渡円（ひわたしまどか）委員の任期満了に伴って、同氏を再任しようとするものです。

先ほどの質疑において、（市長は、日渡氏について）「全国的な活躍をされ、実績や知見を活かして教育改革に取り組んでこられ、今後も引き続いて積極的に取り組みを進めてもらいたい」という期待をされているということでありました。

国の教育改革の流れも、この大津市では強化されていると私は感じているんですけども、いま直面をしている学校の適正規模化や通学区域、コミュニティスクールなど地域との連携の問題、またいじめや不登校対策など山積をする課題については、大津市の地域性、また特徴に由来することもたくさんあると思います。

そのために、これまでの経緯や関係性を踏まえて、現場や地域と丁寧な協議や取り組みを進めていく必要があると考えるものです。また、地域のまちづくりを進めていく上でも、地域の教育力を強める社会教育を大切にしていかななくてはならないと思います。地方教育行政を担っていただく教育委員会委員は、やはり地域に通じ、地域の子どもたちとの接点を持つ方が相応しいと考えるものであります。

教育改革と銘打って新たな分野にいち早く飛びつくことよりも、とりわけ義務教育という教育の基礎の期間を充実させる、豊かな大津の教育を実現させるために、子どもたちの実情をしっかりと把握をし、必要な手立てと、何より教育環境を整備するために必要な財源を確保することが先決だというふうに考えるものです。

日渡氏の人物やこれまでからの経験、実績を否定するものではありませんが、地域の教育を地域でつくりあげていくという教育における住民自治の観点からも、教育委員会委員の構成は、地域に関わりの深い方々、また職責を全うしていただける十分な条件のある方々の中から選ぶべきだと考えます。以上の点を指摘をして反対討論といたします。